

戦死者確認(證明)書

一、死没者所属部隊名(通稱號) 第八師団通信隊(杉蔵部四七五部隊)

一、徵集年 兵種

一、官 等(死没前) 一等兵(死没後) 兵種

一、氏 名 年 月 日生

一、死没場所 〆ニラ原北方四十キロ

一、死亡區分及之理由 戦死(戦死) 戦死(戦死)

一、死没年月日時 昭和二十年六月五日

一、死没者本籍地留守担当者

右確認(證明)書

昭和二十年 月 日 元所属部隊 〆ニラ原通信隊(杉蔵部四七五部隊)

現住所

元官等級

氏名印

(註)死亡理由、場所ハナルベクワラント特ニ善戦後ノ死亡、明細ニ、生死不明ニナラズ者ハソノ前後ヲワラント知ラセ下サイ

宛先

地方世話部認定係

18-10

203.3/1  
203

現狀證明書

本籍地	[Redacted]
河屬部隊	第五混成旅第五十四團第三營六十三大隊
官階姓名	陸軍一等兵 [Redacted] (天正石)
受傷場所	不明 (即此所記)
受傷年月日	不明
受傷姓名	宋養夫相
死傷場所	第三營六十三大隊第二分隊隊部附近
死傷區分	戰死
死傷年月日	昭和十年一月二十五日
摘記要	[Redacted] (養子孫 昭三子孫)

昭三

現狀證明書  
昭三 昭三子孫 昭三子孫  
昭三 昭三子孫 昭三子孫

現狀者 現世所 [Redacted]

第五混成旅第五十四團第三營六十三大隊  
陸軍一等兵 [Redacted]

死 亡 現 認 證 明 書

現 認 者	死		亡		現 認 事 由
	所 屬 部 隊 名	官 等 姓 氏 名	本 籍 地	死 亡 年 月 日	
現 認 者	戰車第二師團機動步兵第二聯隊	陸軍兵長	[Redacted]	昭和二十年六月五日	遺骨遺留品の状況 なし
所 屬 部 隊 名	戰車第二師團機動步兵第二聯隊				遺骨遺留品の状況 なし
官 等 姓 氏 名	陸軍兵長				遺骨遺留品の状況 なし
本 籍 地	[Redacted]				遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 年 月 日				昭和二十年六月五日	遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 原 因				戦死	遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 場 所				中部ルンニ島	遺骨遺留品の状況 なし
傷 病 名				砲彈破片 瘡	遺骨遺留品の状況 なし
遺 骨 遺 留 品 の 状 況					遺骨遺留品の状況 なし
現 認 事 由					遺骨遺留品の状況 なし
證 明 者 日					遺骨遺留品の状況 なし
所 屬 部 隊 名	戰車第二師團機動步兵第二聯隊				遺骨遺留品の状況 なし
官 等 姓 氏 名	陸軍兵長				遺骨遺留品の状況 なし
本 籍 地	[Redacted]				遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 年 月 日				昭和二十年六月五日	遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 原 因				戦死	遺骨遺留品の状況 なし
死 亡 場 所				中部ルンニ島	遺骨遺留品の状況 なし
傷 病 名				砲彈破片 瘡	遺骨遺留品の状況 なし
遺 骨 遺 留 品 の 状 況					遺骨遺留品の状況 なし
現 認 事 由					遺骨遺留品の状況 なし
證 明 者 日					遺骨遺留品の状況 なし

記載より注意

本表は戦死者の遺骨を調査し、その所在を明らかにし、かつその死因、戦死の場所、及び戦死の年月日等を調査し、その結果を明らかにし、かつその結果を証明するものである。本表は戦死者の遺骨を調査し、その所在を明らかにし、かつその死因、戦死の場所、及び戦死の年月日等を調査し、その結果を明らかにし、かつその結果を証明するものである。

昭和二十二年			死亡者調査表			昭和二十二年十月...		
留所現住所			死亡年月日時			死亡場所		
死亡原因			死亡年齢			死亡時刻		
死亡直前の状態			死亡原因の記載			死亡時刻の記載		
氏名			性別			年齢		
住所			職業			教育		
親戚			備考			備考		
死後処理			備考			備考		

◎本表は捺印の欄以外に筆で記入すること。  
 ◎記載の注意並に原簿には変更面があり記載上の注意をよく読んでから記入の事。  
 ◎不備事項を判明しあるものは各班にて未記すること。

昭和二十二年 死亡者調査表  
 昭和二十二年十月...  
 昭和二十二年十月...



死に確認証

一部隊名 第五有線第一二三中队

一官軍自名

一本籍

一死に日時

昭和二十一年六月六日

一死に場所

比島北之島ノオウラ洲 カバツラ

一死に事由

濱河原陸橋銃撃戦中

28-18

一 遺 棄 者

一 区 分

戦 死

右 方 明 示 す

昭 和 三 十 三 年 十 月 二 十 二 日

28-14

1118

現認(事實)證明書



本籍地 [Redacted]  
所屬部隊 固有名 [Redacted] 通稱名 [Redacted]  
徵集年 [Redacted] 役種 [Redacted] 兵種 [Redacted]  
官等級(昭和) [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日  
召集金氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

- 一、死亡年月日時分 昭和二〇年 六月 八日 時 分
- 二、死亡區分及傷名 戦死
- 三、死亡場所 長門県下関市下関町三丁目
- 四、死亡状況 戦時中、長門県下関市下関町三丁目にて、敵機襲撃を受け、戦死す。
- 五、遺骨及遺留品の有無 遺骨は発見されず、遺留品はなし。
- 六、死亡に関する書類の有無 死亡届、戦没届、戦没者名簿等あり。

右の通り相違ない事を証明する

昭和二十七年 六月 十七日 元所屬部隊(固有名) [Redacted]  
(通稱名) [Redacted]

現住所 [Redacted]  
召集金氏名 [Redacted]

- 一、死亡者本籍地
- 二、召集金氏名の住所(固有名)

右の通り相違ないことを証明する

昭和 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日  
[Redacted] 縣 [Redacted] 郡 [Redacted] 村町市長 [Redacted] 印

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所属部隊名(並稱號) 銃兵團砲兵連隊 機関砲隊

二、徵集年 昭和四年 役種 砲兵 歩兵

三、官 等(死歿前) 陸軍少佐 (死歿後)

一、氏 名 [Redacted] 年 月 日生

二、死歿場所 キンガン東方の山麓に於て

三、死亡區分並ニ事由 敵迫撃砲の破片に腹を穿たれり

四、死歿年月日時 昭和四年六月六日

五、死歿者本籍地留守擔當者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和四年四月十六日

元所属部隊 砲兵團

現住所 [Redacted]

元官等級 陸軍少佐

氏名印 [Redacted]

(註) 死亡証明(場所)ナルニテハ、シテ、戦後ノ死亡ハ、明ニシテ、生歿不明ニナラズ、ハ、ソノ前接ツテ、マ、ク、知ツテ、下、セ、イ、

地方世話部認定係



現認證明書

陸軍

本籍地

現住所

所屬部隊名

獨立歩兵第八十二旅團作業隊

陸軍上等兵

死亡年月日

昭和二十一年六月六日

死亡場所

比島(ルソニ島)イ、木村

死亡状況

昭和二十一年五月十日ルソニ島イ、木村附近、战斗中米軍ノ

白撃砲聲ニ依リ負傷ス、野戦病院ニ收容于高中ノ所

昭和二十一年六月六日戦傷死セリ

右現認ス

昭和二十一年九月二十七日

現認者

元兵長

陸軍



(1149 327)

戦歿者履歴記(證明)書

一 死歿者所屬部隊名(通稱) 第...部隊

一 徵集年役種、兵種 昭和十八年 補充兵隊 技師

一 官署(死歿前) 兵隊 (死歿後) 兵長

一 氏名 肩

一 死歿場所 比島 (死歿後) 兵長

一 死亡區介並事由 歎痰死 (死歿後) 兵長

一 死歿年月日時間 昭和十八年六月七日

一 死歿者本籍地 留守垣當番

右履歴記(證明)書

昭和二十一年七月一日

一 註 死歿事由... (死歿後) 兵長

一 官署(死歿前) 兵隊 (死歿後) 兵長

一 死歿場所 比島 (死歿後) 兵長

一 死亡區介並事由 歎痰死 (死歿後) 兵長

元正天皇御宇

乙未年三月廿三日庚辰  
乙未年三月廿四日庚辰  
乙未年三月廿五日庚辰  
乙未年三月廿六日庚辰  
乙未年三月廿七日庚辰  
乙未年三月廿八日庚辰  
乙未年三月廿九日庚辰  
乙未年三月三十日庚辰

乙未年三月廿三日

乙未年三月廿四日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿六日

乙未年三月廿七日

乙未年三月廿八日

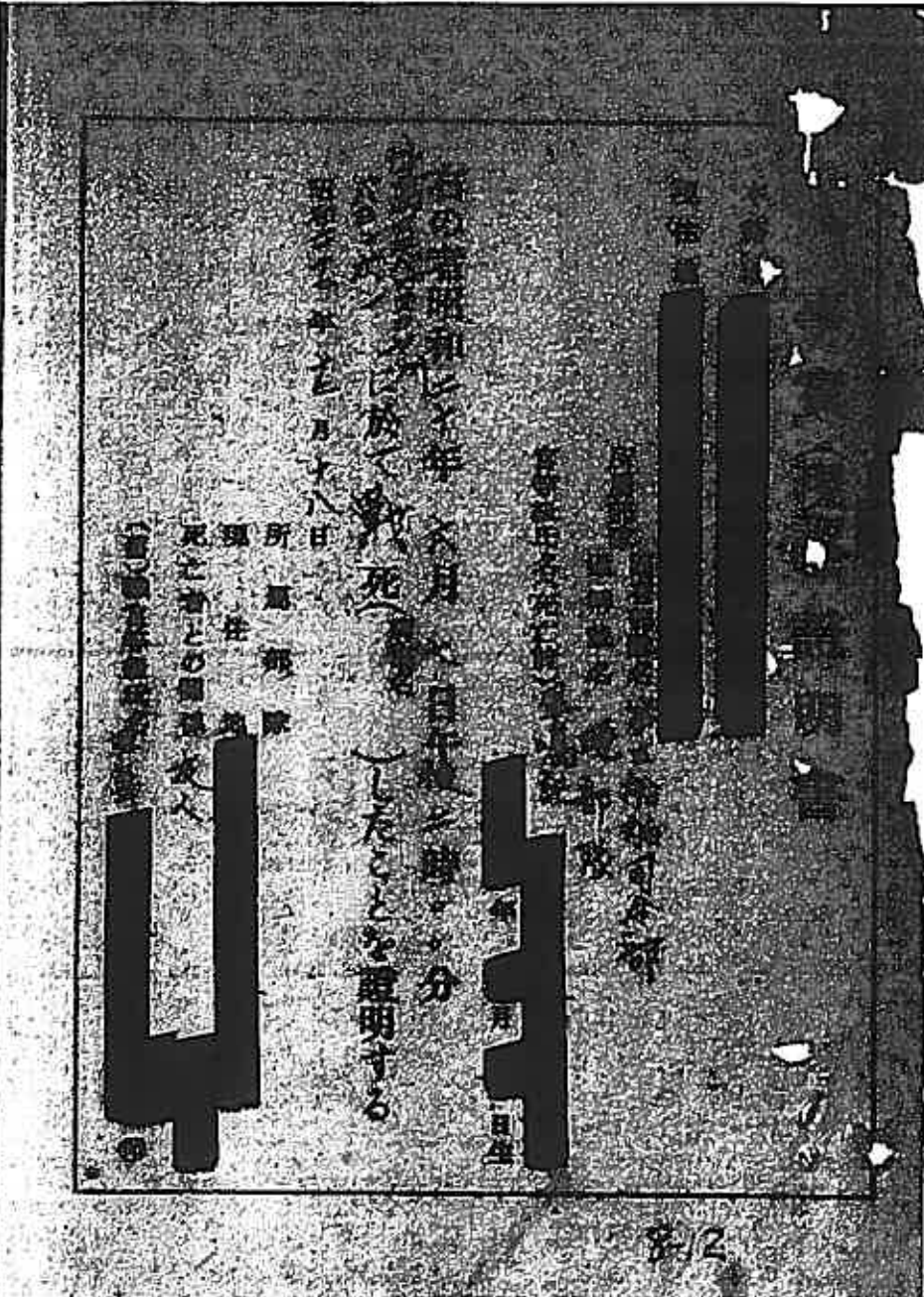
乙未年三月廿九日

乙未年三月三十日

元正天皇御宇  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿四日  
乙未年三月廿五日  
乙未年三月廿六日  
乙未年三月廿七日  
乙未年三月廿八日  
乙未年三月廿九日  
乙未年三月三十日

乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿四日  
乙未年三月廿五日  
乙未年三月廿六日  
乙未年三月廿七日  
乙未年三月廿八日  
乙未年三月廿九日  
乙未年三月三十日

乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿四日  
乙未年三月廿五日  
乙未年三月廿六日  
乙未年三月廿七日  
乙未年三月廿八日  
乙未年三月廿九日  
乙未年三月三十日



8-12

田邊 深一 齋 出票 野山等 野山等 野山等

昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月	昭和十九年七月
20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7	20.6.7
モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島	モリスン島
野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等
野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等
野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等
野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等	野山等

参考 (例) 昭和十九年七月滿洲國比島海軍... 戦中昭和十九年三月... 野山等 野山等 野山等

確認資料 昭和十九年九月五日... 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等

現認者 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等

同 現住所 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等 野山等

印欄の記載より下の尚確認資料欄に出来得る限り詳細に記入して下さい

3-103

# 死亡事實現認證明書

本籍地

現住所

所屬部隊 独立教養所 教養隊 第106部隊

召集年次 乙

官等級 少尉  
氏名 [Redacted]

右ノ者昭和二十年八月七日 時

分ル<sup>ル</sup>ニ於テ<sup>ニ</sup>戦傷  
病死シタル<sup>ル</sup>ニ<sup>テ</sup>証明(現認)ス

昭和二十年 月 日

所屬部隊 職名 独立教養所 教養隊 第106部隊

官等級 少尉

氏名 [Redacted]

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シタルモノハ詳記ス  
二、職名ハ中、小隊長、班長、操縦手等ハ詳記ス

10-01

死亡事實證明書

本籍地	[Redacted]
現任所	右同
所屬部隊	第一師團獨立隊中隊 通稱 威一〇六〇九 [Redacted] 隊
死亡前階級	少尉 死亡後階級 [Redacted]
徵集年	大正 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日
留守部隊名	[Redacted]
右者昭和二十年六月有首南ルツレランシク橋梁附近戦斗に連絡ニ行キ戦死ス	
右條認(證明)ス	
昭和二十二年一月七日	
現任所	[Redacted]
部隊名	威一〇六〇九 [Redacted] 隊
職氏名	班長 兵長 [Redacted]

死

昭和二十二年七月廿日 (第 10 號)

民生部第二世部

# 死亡者調査表

昭和二十二年 7月 10 日調製

製調者

長	係	長	係	係	係	係	係	係	係
整理	番第	所屬部隊	年	月	日	時	分	死亡年月日時	死亡年月日時
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現
現	現	現	現	現	現	現	現	現	現

本表に記載以外の第一世係に記入すること  
 記載上の注意並に原簿は裏面にあり(記載上の注意をよく読んでから記入の事)  
 不備事項中判別しあるものは各班にて未備すること





戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名 戸主

氏名

年 月 日生

28-11

二、所属部隊名

比島 派遣隊 第... 部隊

三、戦死者徵集年月 在籍中 兵種 官等 階級 年 月 日

四、戦死年月日時刻及場所

五、戦死現認ノ程度

六、遺骨歸還ノ有無

七、戦死當時ノ状況ノ概要

八、死亡区分

九、其ノ他

一〇、遺族ノ現住所

戦死者ノ親柄

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十一年 月 日

證明者住所

戦死者ノ親柄

所属部隊名

兵種 官等 階級

氏名

市町村長證明箇所

現認（死亡）證明書

認是	主任	科長	高	課長	檢印
現認者	者	亡	輪	死	所屬部隊固有記号
右現認す 昭和二十二年九月五日	死亡時状況	死亡年月日	死亡之因	本籍地	補充経緯
元前編隊官等級十俵空情報時原九中隊 （赤二及要緊是辨定） （赤三及上記派二番隊）	ノ和陣地敵は突破す。後還中。敵小部隊と 不期に遭遇し、果死す。	昭和二十二年七月七日	戦死傷病名不明 戦死	現住所本籍地同	歩兵 上
任長		時分死亡場所 ノ和高地		妻	大隊
		遺棄の有無			
		無			

認是部 認是部 認是部  
印 印 印

# 戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 威第一五三八〇部隊(第五〇軍行場本隊)

一、徵集年 昭和十五年 役種 第一補充 兵種 歩兵

一、官等(死歿前) 陸軍少佐(死歿後) 陸軍少佐

一、氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

一、死歿場所 比奈ルソノ念口スカヤ湖ハスラン

一、死亡區分並ニ事由 戦死

一、死歿年月日時間 昭和二十年六月八日 一時

一、死歿者本籍地留守擔當者 [Redacted]

## 右確認(證明)ス

昭和二十年五月二十日

元所屬部隊名

現住所

元官等(級)

氏名(印)

比奈ルソノ念口スカヤ湖ハスラン 威第一五三八〇部隊

陸軍少佐

註 死亡事由、場所ハナルニシテクソシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲ  
クソシクオ知ラセドサイ

宛先

地方世話部 関係

12-11

現認證明書

本籍地  
所屬部隊

徵集年 昭和二年

官階 兵長  
氏名

陸軍兵長  
昭和二年八月八日

昭和二年八月八日九時

死亡年月日

昭和二年八月八日九時

死亡場所

ルソン島電ハバン河系

死亡区分

戦死 (手榴彈破片創)

死亡状況

マニラ奥要所込隊ニ参加協ハバン河系陣地ニ於テ敵軍掃蕩中戦死  
死体は収容ノ上場葬ルモ遺骨未ダ留出携行セズ

右正に現認し證明する

昭和二十一年三月二十一日

現認者 所屬部隊 (通称號)

兵團 第... 部隊 (成才三六八) 部隊

現住所

旧職官等級氏名 陸軍歩兵上等兵

692



昭和二十二年 月 日 留公(第 號)

◎本表中捺印の欄以外は世帯部にて記入すること  
◎記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり(記載上の注意をよく読んでから記入の事)

者		帯		連		長		科		長		課		長	
決	特	見所及給總の手入料表													
		者	現	右	※	死亡	死亡	死亡	擔	留	本	年	所	番	整
		護	現	現	死	亡	當	守	籍	集	屬	號	理		
		所	住	住	亡	區	者	現	地	積	部				
		部	所	所	區	分	續	住	地	積	隊				
		隊	隊	隊	※	※	稱	所	※	積	周				
		※	※	※	※	※	氏	※	※	積	有				
		氏	氏	氏	氏	氏	名	名	名	積	名				
		印	印	印	印	印	名	名	名	積	名				
		官	官	官	官	官	名	名	名	積	名				
		等	等	等	等	等	名	名	名	積	名				
		級	級	級	級	級	名	名	名	積	名				
		級	級	級	級	級	名	名	名	積	名				
		未	未	未	未	未	名	名	名	積	名				
		歸	歸	歸	歸	歸	名	名	名	積	名				
		近	近	近	近	近	名	名	名	積	名				
		屆	屆	屆	屆	屆	名	名	名	積	名				
		無	有	無	有	無	名	名	名	積	名				
		第	第	第	第	第	名	名	名	積	名				
		號	號	號	號	號	名	名	名	積	名				
		報	報	報	報	報	名	名	名	積	名				
		公	公	公	公	公	名	名	名	積	名				

死亡者調査表

昭和二十二年 五月 廿九日



姓名	...	...	...	...
生年	...	...	...	...
死年	...	...	...	...
死因	...	...	...	...
埋葬所	...	...	...	...
備考	...	...	...	...

死亡年月日	...	...
死亡場所	...	...
死亡原因	...	...
死亡原因	...	...
死亡原因	...	...

死亡原因 (本人証書) ... 死亡年月日 ... 死亡場所 ... 死亡原因 ...

右之通り認定す。併し、  
 所属部隊 ...  
 現住所 ...  
 官等氏名印 ...

備考  
 1. 別冊ニ於テ成ルベクノ詳ニノ記載セラルル度、  
 2. 死亡認定ノ理由ニ其ノ確度(内ニハ昭示)十九年十月三日甲ノ不ナリ度  
 甲 確実ナルモノ、 乙 記憶ウケルモノ、 丙 他人ヨリテ知ルモノ

現認（死亡） 終用書

係	認定	主任	科長	課長	檢印
者	現	者	亡	死	
右認 昭和二十二年九月四日 死 係長	現 昭和二十二年九月四日 死	死亡時狀 不期區區一戰死	死亡年月日時 昭和二十二年六月八日 死亡区分 戦死 戦死場所 横通線 昭和二十二年六月八日 死因 戦死	本籍地 同下 妻	所属部隊 陸軍 歩兵 上等兵 大隊 失隊

此部部部部部

部部部部

證明書

本以籍  
氏名

[Redacted]

([Redacted]年[Redacted]月[Redacted]日生)

右者係袖八身大月比律岩嶺へ疎鈍、三十分島外へ市ラサ  
新地と花の森栽培場と従事す。

昭和十一年八月頃 黙死の覚悟と伴ひ軍が現地自決の作戦  
対策を實施するに本名は元第百師団経理部と軍属として  
採用され、外へ市ラサの新地の軍の指揮り下へ食料作物の裁  
培と糧秣収獲等と勤事す。

昭和十一年四月九日米軍が外へ市地方へ進攻し、来るに糧秣  
を運搬し、軍と共に又外へ市方面へ轉進す。

昭和十一年六月八日午前十時頃、夕毛加へ山中宿と云ふ人キロ作近  
を通過するに、突然敵機の大規模と遭遇し、本名は敵弾を頸

部と受け、其の場へ即死した。

私は当時 [Redacted] の職となり、在留邦人の軍属採用  
等とのことは常に軍と協力して關係があるに、この本名が軍属である  
ことをよく知っていた。又本名の黙死したことのことは昭和十一年九  
月十七日(終戦後)のりマオへ収容所へ収容中、報告を受け、この本名  
が昭和十一年六月八日夕毛加へで黙死したことを知っていた。

右は事実と相違ありません。

昭和三十一年五月二十日

[Redacted]



証 明 書

本 籍

氏 名

[Redacted]

( [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生 )

右者比律賢ミンダナオ島ダバオ市ラサン耕地で麻栽培に従事す。

昭和十九年八月頃第百師団經理部に軍属として採用す。ワガン耕地に於て軍の現地自活のため食料作物の栽培や糧秣収集等の勤務に従事す。

昭和二十年四月二十九日米軍がダバオ地方へ進攻し来るや糧秣を運搬して軍と共にタモガン方面へ転進中、昭和二十年六月八日午前十時頃タモガン八キロ附近に於て敵の空襲により本名は敵弾を頭部に受けて即死した。

右証明する。

昭和三十九年五月八日

一 〇 〇 〇 〇

元百師団經理部

庶務課長 陸軍主計中尉  
兼主計課長

# 現認證明書

地方世話部

所屬部隊 獨逸無線隊第百二十五隊	本籍地	集 隊 服 隊	種 役 現 兵	種 兵 通 信	死亡年月日時	死亡場所	死亡事由	留守宅住所氏名	現 認 者	死者との関係	死者の状況
					昭和二十年六月七日 11時 20分						
種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	死亡年月日時	死亡場所	死亡事由	留守宅住所氏名	現 認 者	死者との関係	死者の状況
種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	種 兵 通 信	死亡年月日時	死亡場所	死亡事由	留守宅住所氏名	現 認 者	死者との関係	死者の状況

右現認證明教します

昭和二十年六月七日

現 住 所	本 籍
獨逸無線隊第百二十五隊	獨逸無線隊第百二十五隊
獨逸無線隊第百二十五隊長	獨逸無線隊第百二十五隊長